



02:

いざベネチアへ

2009. 1. 26 夕食を自宅で済ませ、佐賀から博多駅に向かう。前日より博多入りし、早朝の行動に備えた。翌日 1. 27. AM5:00 に起床。朝食もとらず地下鉄で福岡空港へ向かう。始発であったが、地下鉄は混み合っていた。福岡空港で初の液体物の検査を受ける。何もなくすんなり通る。AM7:10 発の成田行き。定刻を 20 分過ぎての出発となった。20 分も待たされるのも地獄の時間。同列席の老夫婦は、フランクフルトに住む娘夫婦に逢いに行くとの事。久しぶりに孫に逢うのが楽しみらしく、写真を私に見せては終始笑顔だった。

私は 10 年以來の久しぶりのフライトで、心に余裕はなかった。成田空港に着き、国際線へのトランジェット。福岡空港での出発が遅れたため、出口でスイス空港の係員が私を待っていた。誘導され国際線へ急ぐ。AM9:30 を過ぎていた。AM11:00 の出発まで時間があるため、最後の和食と思い、「山菜うどん」を食べる。次のフライトのことを考えると、うどんの味もよく分からなかった。レストランを後にし、搭乗口へ。近くの売店に寄ると、見慣れた人がウロウロされていた。宮本会長だった。初めて挨拶をさせていただき、先にロビーで待たれていた先生方と合流。安心感を覚える。いよいよ成田からチューリッヒへ 12 時間近くの長いフライト。地獄の時間。機内の映画を鑑賞し気分を紛らわそうとするが、少しの揺れにも体が反応し落ち着かず。ワインで酔ってしまえばいいとも思ったが、スパークリングワインを 2 本呑むがまったく酔えず。結局、睡眠もとれずにひたすら時間が過ぎるのを待つ。途中、人生初の流水を見て、小さな感動があったが、怖さを忘れることはなかった。やっとの思いで、チューリッヒ空港へ到着。出発手続き後に出発口が変更になり、全員で大移動。出発待機中に、アナウンスがあり、フライト側の都合で席の変更があった。英語のリスニングが出来た自分に小さな拍手。チューリッヒ空港からマルコポーロ空港までは山脈を越えるため、フライト中の揺れも多く、機内のコーヒーとチョコレートを味わう余裕はこれまた無かった。しかし、到着時間が近づくと、窓から光で形を作るベネチアが見えてきた。出発まで何回も見えてきたベネチアの地図の形の光に、しばし目を奪われた。本当に水の都と言う名前がしっくりくる。感動的ではあったが、あまりにもフライトの揺れが大きいため、カメラを取り出す気力はなかった。

マルコポーロ空港に着き、自分のスーツケースを待つ間、携帯電話の設定を国際モードに切り替える。マルコポーロ空港からベネチアまでは A T V O 社のシャトルバスで移動。約 15 分の短い移動。ローマ広場へ到着。重いスーツケースを取り、石畳の道を進む。本日の宿泊は 4 つ星の“フリンチベ”を目指す。パウチャーを取り出しチェックインする。片言のイタリア語と英語でどうにか対応する。初めて「ブォナセーラ」を使う。私の宿泊する部屋は、お姫様様式の部屋で可愛かった。

目覚まし時計のみセットし、夕食に向かう。宮本先生が先頭に立ち、メンバー全員でリアルト橋近くのお勧めの店“マドンナ”へ向かうがあいにく休業。小雨の振る中、リアルト橋に一番近いリストランテで食事をする事になった。少々寒かったが、リアルト橋を眺めるテラスでの夕食。到着初日からの夕食から晩餐会の雰囲気だった。もともとイタリア料理が好きな私は、今回の旅での食事も楽しみの一つだった。メンバーそれぞれパスタを選ぶ。私はペスカトーレを選んだ。ソースにコクがあり、おいしかった。その他の料理もおいしかったが、本場のオリーブオイルが私には合わないようだった。ワインは軽めのものでおいしく、ついつい呑みすぎてしまった。食事をしたメンバー全員で記念写真を撮ってもらった。サービス精神旺盛なリストランテの店員は陽気に歌をプレゼントしてくれた。

食事も終わり、ホテルに帰る。PM11:30 を過ぎ、AM1:30 には就寝した。福岡で AM5:00 に起床してから 24 時間以上を経過していたが、なかなか寝付けず、AM5:00 には目覚めた。完全に目が覚めたので、旅の初日の日記をつけた。外ではカナルグランデを通る船の音や、教会の鐘の音が聞こえていた。

Start of travel



機内食：メインはチキンの煮込



人生初の流氷に感激!!



ホテル プリンチペが宿泊先



ホテルのロビー 綺麗でした



お部屋はお姫チックで豪華



ベネチア初の夕食はベスカトーレ



リアルト橋を眺めます



AM5:00に起床に見る朝焼け



ベランダから運河が見えました